

第1回神戸2025ビジョン策定に向けた有識者検討会議 主なご意見

1. 論点1：2025年に向けて、神戸市の「目指すべき姿」をどのように考えるか。

- ・人の暮らしや生活を第一に考えた「一人ひとりを大事にする、人にやさしい、地に足のついたまち」。
- ・中規模ではあるが衣食住困らず、「一人ひとりのケアが行き届くまち」。
- ・震災を経験したまちだからこそ、「災害が起こってもダメージを受けず、大丈夫なまち」。
- ・コロナの影響下で「リバビリティ（安心して住みやすいまち）」、DX、スマートシティなどの実現で「サステナビリティ」、またこのような状況であっても各国の「競争」ではなく「協奏」を目指す「グローバリゼーション」の3点が大切。さらに、色々なものを学習し、事業化していく「学習する都市」としての視点も持つべき。
- ・コロナにより東京一極集中の課題が浮き彫りになった点を踏まえ、規模でなく、「世界で、関西できらりと輝くまち」。
- ・豊かな住環境や自然を活用し、「新しいライフスタイルが実現できるまち」。
- ・外国人に多文化の背景を持った市民として定着してもらい、本当の「国際化」した市民が増えれば良い。
- ・市内企業の大半を占める中小企業について、DXを積極的に取り込み、「東京の下請け」でなく「域外から稼ぐ」元受けにならないといけない。
- ・若者を増やし「活気があるまち」。
- ・神戸には「ハイセンス」、「ハイカラ」だけではない様々な魅力があるので、それらを脱ぎ捨てて新しいイメージをつくるべき。
- ・「ゆとりあることを魅力とした住みやすいまち」を維持して欲しい。

2. 論点2：「目指すべき姿」を実現するために、全体構成（案）は十分か。（盛り込むべき要素、修正すべき点等）

【全体に関して】

- ・どの計画も抽象的でわかりにくい表現となる傾向があるので、ある程度具体的な表現とすべき。
- ・5年後の計画ということで、全体的にコロナに関しては、これほど打ち出さなくて良い。テーマや施策の柱に「コロナ」という言葉は入れない方が良い。「感染症対策」が第一優先であるかのような印象は避けるべきであるので柱の順番も検討すべき。
- ・今回の計画は、感染症への対応が前提にあるべき。
- ・まちが前進していくために「変化、成長、進化」という要素は必須ではないか。
- ・文化、芸術は町の魅力、人を惹きつける要素として重要である。
- ・神戸には、バレイ、日本舞踊など認知されていない魅力が沢山ある。それらを整理し、

結び付けて、「多様性」として発信していければ良い。

【取組の視点・横断目標に関して】

- ・「Society5.0」は今回のコロナを踏まえると、日本はデジタル化で遅れており、加速が必要であるとともに、分野もDXなども含め幅広く記載すべき。
- ・「神戸からイノベーションを起こしていく」といった視点も加えるべき。
- ・「人を大切にする」といった視点も必要。
- ・SDGsは網羅するのではなく、注力分野を打ち出せば良い。

【施策の柱に関して】

- ・神戸には、地域によって異なる人間関係を有する「多様性」がある。このような神戸ならではの魅力を訴えることができれば良い。
- ・田舎暮らしも都会暮らしも可能なまちであることを打ち出すべき。
- ・郊外、山や海といった魅力的な自然があり、田舎暮らしや都会暮らし等生活スタイルの選択肢が多様である点を伝えられれば良いのでは。
- ・昔から外国人が住んでおり、進取の気性があり、色々な生き方ができるまちであるので、「多様性」をもっと打ち出すべき。
- ・「共生」ということで「障害者」についても言及するべき。
- ・若者だけでなくシニア層の視点も入れるべき。
- ・経済成長に関しては、「域外から稼ぐ」視点とそれを「域内で分配する」視点が重要である。
- ・昨今の感染症や阪神淡路大震災を経験したまちとして、①も②も無視できない。
- ・震災を経験したまちとして、「災害」という文言は入れた方が良いのでは。
- ・今回の感染症を踏まえ、「集約」より「分散」、「効率」より「余裕」や「ゆとり」が重要になってきている。

3. 論点3:「目指すべき姿」を実現するために、具体的にどのような施策を進めていくか。

【まちづくり全般】

- ・神戸の夜の街は東京・大阪と比べ静か。人間本来の生活リズムと調和しており良い。一方で観光等から見れば課題。
- ・夜に開いている美術館など、夜に過ごせる場所を増やすべき。
- ・公共空間、施設でのインターネット整備は重要。
- ・空き家対策は重要。
- ・西神中央のそごう跡地はビジネスが起こせる場として活用してもらいたい。
- ・「多文化・多様性」に関して、もっと国際色をあらゆる場面で「見える化」していったら良い。

- ・観光に関し色々とスポットがある割には目玉となる場所が無い。重点的にどこかに絞ってPRしていくべき。綺麗にリノベーションする場所と昔ながらの情緒を残す場所でコンセプトを明確に区別した方が良い。
- ・地域に貢献したいという若者が増えている。市の採用を増やし、そういった人々の受け皿を増やすことで、人口増加や災害時などの安心にもつながるのでは。
- ・震災前に「アーバンリゾートフェア」という神戸のまち全体を舞台にしたジャズイベントがあったが、実際に神戸の暮らしを見てもらう良いイベントだった。実際に住んでもらうには暮らしを見てもらわないといけないので、このような工夫も必要。
- ・神戸には、大都会にはない余裕、ゆとりある空間を活かして密にならず文化、芸術を楽しんでもらう素地があるので、利用し、発信していくべき。
- ・アートで若者が活躍できるようなものを作っていくべき。
- ・また、いつも音楽が流れているようなまちにする仕組みが作れば良い。
- ・震災で遅れた各種インフラ関連、またデジタル投資を加速し、メリットを見出しながらまちづくりを進めていく必要がある。
- ・神戸のランドデザインを描き、それをプロデュースできる人材の招聘が必要。

【子育て・教育施策】

- ・経済的支援が充実すれば子供を持つと思う。特に公立学校に通う貧困世帯の子どもたちにも目を向けるべき。
- ・経済的にひとり親でも安心して育てられる環境は重要。
- ・神戸の保育士の定着率や職場環境は意外と保護者から注目されているので、PRの支援でそういったところにも目を向けるべき。
- ・「保育所に入園できるかどうか」が直前まで分からないなど、不安になる要素が多い。丁寧な情報発信をしていくべき。
- ・塾に行かなくても良いような学校教育の質を担保できれば魅力的。
- ・教育のインターネット環境整備は重要。
- ・教育が古く画一的である。生徒一人ひとりへの十分なアプローチが必要。

【交通施策】

- ・ポータライナーの混雑緩和は解消が必要。
- ・MaaSは大変な取り組みであるが、検討していくべき。
- ・バスのルートをもっと魅力あるものに他方が良い。
- ・神戸空港の発展に期待している。

【医療・介護・福祉・危機管理等】

- ・神戸の医療体制は誇れるものがあるので、もっとPRするべき。

- ・新型コロナウイルスの影響で、地元志向が高まっており、働く機会の提供が重要。より多くの専門職の確保や、医療現場の就労環境の改善が必要。
- ・感染症と自然災害が重複する時代の危機管理体制の強化が必要。

【経済・産業】

- ・食文化が豊かであるので、例えば神戸産のものしか扱わないレストランなど明確にわかる地産地消の取組などがあれば良いのでは。
- ・女子大生に対して「神戸で仕事したい」と思わせるようにしなければならない。
- ・外国人を単なる「労働者」として捉えるのではなく、高度人材を呼び込まなければいけない。住環境を整備し、外国人にとって魅力的なまちにする施策が必要。
- ・在宅勤務はなかなか難しい面もあり、そのようなことも考慮したうえで、拠点となる場所にもっとワーキングスペースの整備をしていけば良い。
- ・働く場所の多様化を見据えワーキングスペースを整備していくべき。
- ・DX の推進により域外から稼ぐ力をもつ中小企業を育てないといけない。神戸環境マネジメントのような、DX に対するマネジメントシステムを導入して欲しい。
- ・神戸の学生に地元企業に就職、定着してもらうため、合同説明会や公営住宅の空きを地元企業へ開放するなどの施策が必要。

【地域の活性化】

- ・若い人たちも地域の中でつながりを求めているので、そのような施策を進めていくべき。
- ・若者がもっと地域で参画できる場を作るべき。